

平成26年度
名古屋大学大学院工学研究科
計算理工学専攻博士課程(前期課程)
入学試験問題

専門部門

以下の注意をよく読みなさい。

1. 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開いてはならない。
2. 答案用紙は、予備1枚を含めて合計2枚ある。
 - (1) 罫線が印刷された答案用紙1枚に解答せよ。(問題番号は空欄でよい)
 - (2) 予備の答案用紙を下書き用紙として使用してよい。
3. 答案用紙には氏名を記入してはならない。
4. 問題用紙、答案用紙(予備を含む)はすべて回収するので、持ち帰らないこと。

問題は次のページから始まる。
このページは、下書きに用いてよい。

小論文

以下の文章は日本学術会議が公表した「科学者の行動規範」の一部である。この内容を踏まえて、(1)および(2)の両方に答えよ。ただし、これら二つの問題は等しい配点で評価されるため、片方の問題に時間をかけ過ぎないように注意すること。また、論理展開力を重視して採点するので、そのことに留意して論述しなさい。

科学は、合理と実証を旨として営々と築かれる知識の体系であり、人類が共有するかけがえのない資産でもある。また、科学研究は、人類が未踏の領域に果敢に挑戦して新たな知識を生み出す行為といえる。

一方、科学と科学研究は社会と共に、そして社会のためにある。したがって、科学の自由と科学者の主体的な判断に基づく研究活動は、社会からの信頼と負託を前提として、初めて社会的認知を得る。ここでいう「科学者」とは、所属する機関に関わらず、人文・社会科学から自然科学までを包含するすべての学術分野において、新たな知識を生み出す活動、あるいは科学的な知識の利活用に従事する研究者、専門職業者を意味する。

このような知的活動を担う科学者は、学問の自由の下に、特定の権威や組織の利害から独立して自らの専門的な判断により真理を探究するという権利を享受すると共に、専門家として社会の負託に応える重大な責務を有する。特に、科学活動とその成果が広大で深遠な影響を人類に与える現代において、社会は科学者が常に倫理的な判断と行動を為すことを求めている。

(日本学術会議「科学者の行動規範 一改訂版一」より抜粋)

- (1) 科学者の主体性や学問の自由が重要であるとされている。そのことについてあなたの考えを述べよ。
- (2) 研究成果やデータの捏造(ねつぞう)はあってはならない行為とされている。そのことについてあなたの考えを述べよ。